

計画の進行管理

本プランの目標【基礎的知識の習得】【応用力の育成】【学習意欲の向上】の達成を把握するため、以下の項目について参考とすべき指標を定め、進行管理及び検証を行います。

基礎的知識の習得

- 仙台市標準学力検査の基礎的な問題における目標値と同等以上の児童生徒の割合
- 全国学力・学習状況調査の各教科A問題における学力層の割合

応用力(思考力・判断力・表現力等)の育成

- 仙台市標準学力検査の応用力を測る問題における目標値と同等以上の児童生徒の割合
- 全国学力・学習状況調査の各教科B問題における学力層の割合

学習意欲の向上【全国学力・学習状況調査項目】

① 学習習慣の定着、確かな学力育成に資する活動

- 計画的な学習、予習・復習の定着率
- 「自分たちで立てた課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいる」割合
- 「授業で自分の考えを発表する機会が与えられている」割合

② 学習に向かう意欲や態度

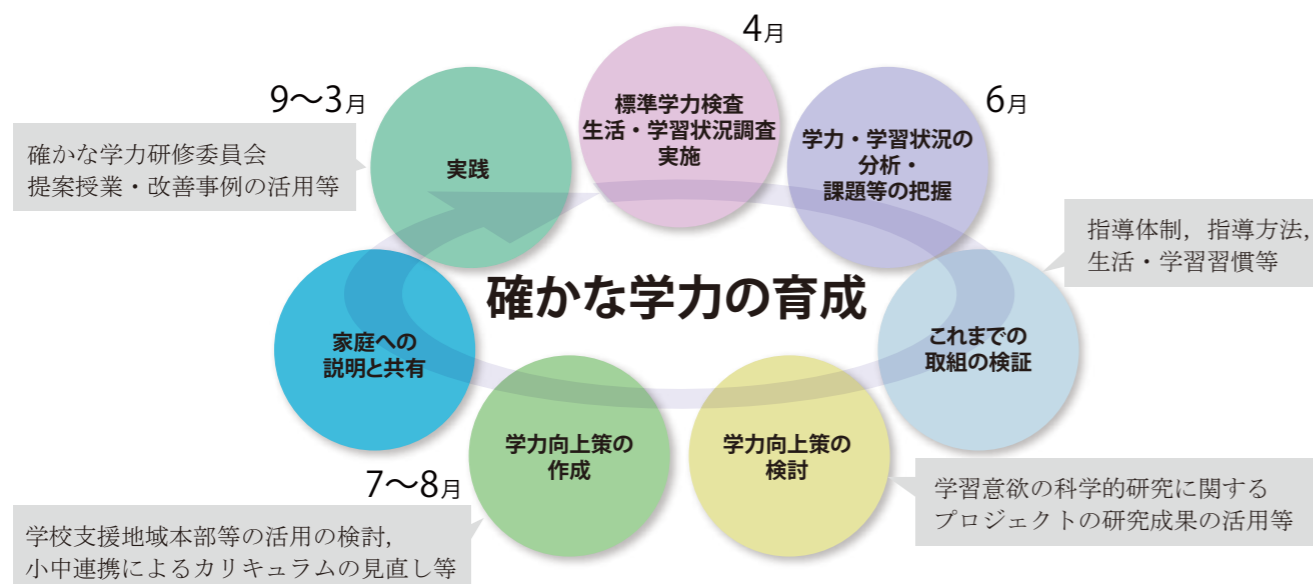
- 国語が好きな割合、大切だと思う割合
- 算数・数学が好きな割合、大切だと思う割合
- 「勉強をとおして、新しいことが分かるようになるのは、楽しい」と思う割合
- 「解き方が分からないときに、諦めずにいろいろな方法を考える」割合

③ その他、波及効果としての生きる力の向上に関するもの

- 「自分には、よいところがあると思う」割合(自己肯定感)
- 「将来の夢や目標を持っている」割合
- 「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」割合

各領域の事業を踏まえた各学校の取組

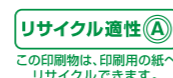
本プランの各領域における事業の方向性を踏まえ、学校ごとに独自の学力向上策を作成して実践することにより、下図のような「確かな学力の育成」のサイクルを確立します。



仙台市確かな学力育成プラン2018 概要版

平成30年3月

編集・発行 仙台市教育委員会学校教育部学びの連携推進室
 仙台市青葉区上杉一丁目5番12号
 Tel. 022-214-8438



この印刷物は、輸送マイレージ低減によるCO2削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷し、印刷用の紙へリサイクルできます。

策定の趣旨

● 第1期プランの推進

仙台市教育委員会では、平成21年3月に「確かな学力育成プラン」を策定し、「すべての子どもたちの可能性を広げるために」の理念のもと、【基礎的知識の習得】【応用力の育成】【学習意欲の向上】という3つの構成要素に基づき、児童生徒の確かな学力の育成に向けて様々な施策の展開や、社会的・職業的自立を目指した、仙台版キャリア教育「仙台自分づくり教育」の推進に取り組んできました。また、豊かな学びの環境づくりとして、学校支援地域本部の設置促進など「地域とともに歩む学校」の体制づくりも着実に進展してきました。

■ 学力検査、生活・学習状況調査の分析における主な成果と課題

本市の子どもたちの学習等の状況については、毎年度、全国学力・学習状況調査や仙台市標準学力検査、仙台市生活・学習状況調査を実施し、その把握に努めてきました。これらの分析による主な成果と課題は以下のとおりです。

基礎的知識

【成果】小中学校ともに上位層の割合が全国平均以上、下位層の割合は全国平均を下回り概ね良好

【課題】小学校算数の学習内容の定着が不十分

【小学校算数】

- 目標値と同等以上の割合が低下傾向、特に5年生時に大幅に下降
- ▶ 3・4年生時の学習内容の定着に課題
- 上位層の減少、中下位層の増加傾向

【小中学校理科】

- 他教科と比較して目標値と同等以上の割合が低い
- 学習内容(主に技能面)の定着が見られない
- 理科室の観察・実験授業の割合が全国と比べて低い

児童生徒のつまずきの内容を詳細に把握し、きめ細かな指導を行う必要がある。

応用力

【成果】小中学校ともに上位層の割合が全国平均以上、下位層の割合は全国平均を下回り概ね良好

【課題】算数・数学において下降傾向

【全体】国語で身に付けた表現力が他教科の学習に生かされていない

【小学校算数】

- 上位層の割合が減少し、下位層の割合が増加傾向

【小中学校算数・数学】

- 目標値と同等以上の割合がやや下降傾向(算数では60%を超えない状況で推移)

より効果的な学びを展開するため、教科横断的な視点に基づいたカリキュラム編成や授業づくりが必要である。

学習意欲

【成果】「自分が世の中の役に立てるように勉強をがんばる」と答えた児童生徒の割合は上昇傾向の状態を維持

【課題】「算数・数学の授業で学習したことが将来社会に出たときに役に立つと思う」と答えた児童生徒の割合は小中学校ともに全国値より低い

- ▶ 算数・数学に対する意欲や学ぶ価値についての意識が低い

将来の夢や目標に向けて意欲的に学習するためには、学んだことを実際の生活場面で生かすことができるような機会や課題を設定する必要がある。

● 教育をめぐる現状の変化

第1期プランの推進期間中には、東日本大震災を経験し、児童生徒の心のケアや防災教育の推進、復興を担う人材の育成など、新たな視点での取組も加わり、また人口減少と少子化の加速、IT化の急速な進展、子どもの貧困と学力の問題化など、児童生徒をとりまく環境は大きく変化を遂げました。

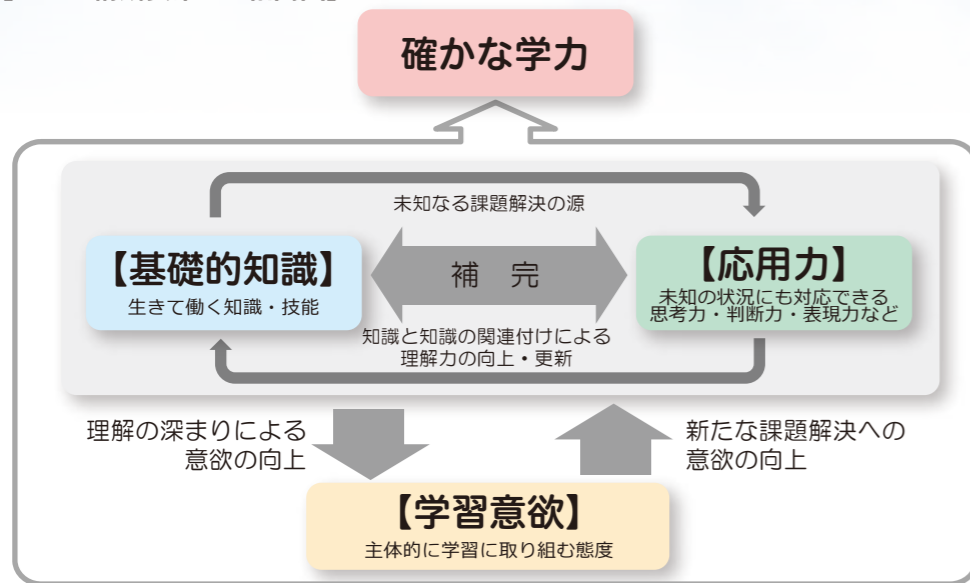
また、平成29年1月には「第2期仙台市教育振興基本計画」を策定し、3月には新学習指導要領が告示され、さらに平成29年度からは県費負担教職員の移譲や本市が求める教師像にふさわしい教員の独自採用開始など、大きな節目を迎えました。

このような状況を踏まえ、これまでの取組を振り返り、本市が目指す確かな学力の育成に向けて、平成30年度から5年間の方向性を示す「仙台市確かな学力育成プラン2018」を策定しました。

本市が目指す「確かな学力」

確かな学力の育成のための3つの要素は第1期プランから継承しながら、基礎から応用という段階的な捉え方だけではなく、身に付けた基礎的知識を活用する中でより深く確かなものにしたり、活用することで知識と知識を関係付けたりするなど、それぞれが補完し合う双方向性の位置付けとしました。また、学習意欲は、身に付けた知識を活用することで高まり、新たな課題解決への意欲につながるものとして捉えました。これらの3つの要素の確実な習得、育成、向上を目指すことを新プランの目標としました。

【3つの構成要素との関連図】



【プランの目標】

基礎的知識の習得

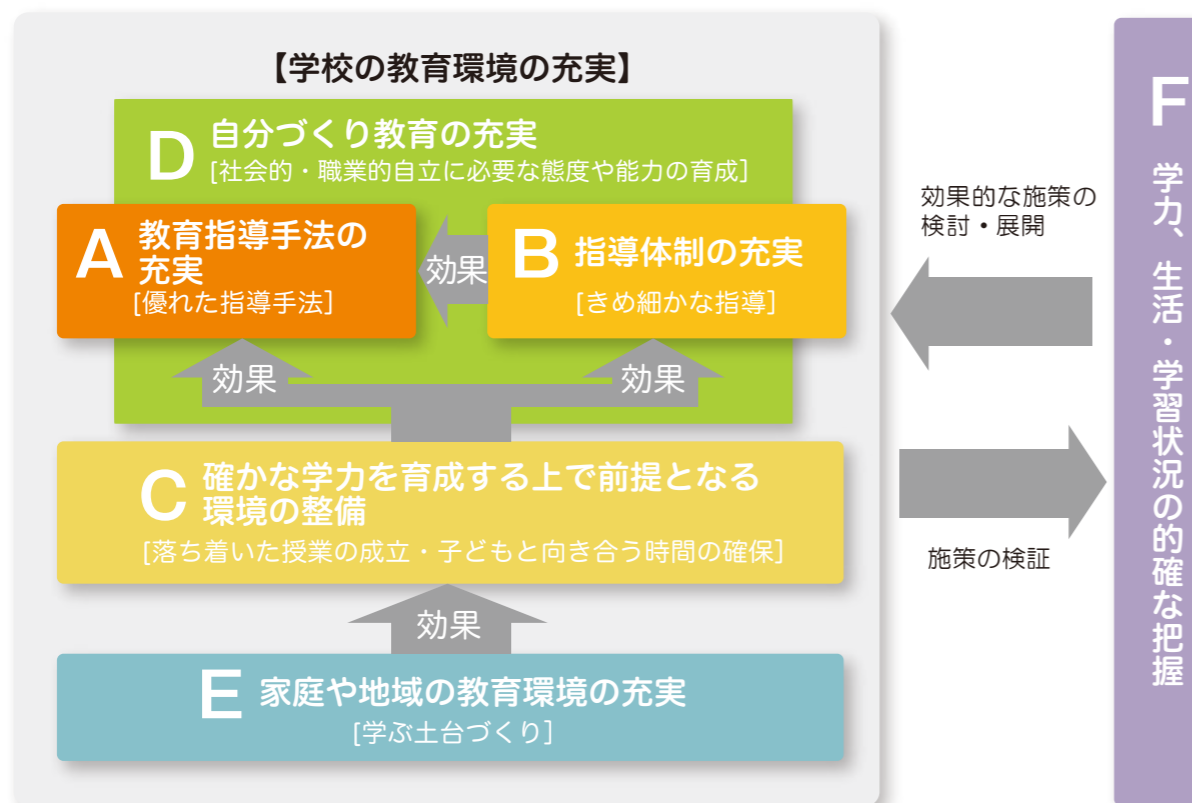
応用力の育成

学習意欲の向上

「確かな学力」を育成するための基本的方向

第1期プランにおける課題を踏まえ、「確かな学力」を育成するための具体的な方向性を領域ごとにまとめ、その関連図と、さらに、各領域において対策を充実させるための個々の施策を掲げております。なお、本プランにおいては、「仙台自分づくり教育」を新たに独立した領域として設定し、他の施策との有機的関連を図ることにより、より効果的に確かな学力を育むこととしています。

【施策領域関連図】



今後5年間で取り組む各領域の事業の方向性

A 教育指導手法の充実 [優れた指導手法]

- 指導手法や教材の充実、学力向上を課題としている学校への個別支援など、教員を支援することを通じて、児童生徒の基礎的知識の定着や応用力、学習意欲等の向上を図ります。
- 学ぶ人間としての素地となる自己肯定感など汎用的な力を育むため、授業プラン「たくましく生きる力育成プログラム」を開発し、学びの基盤ともなる力を育んでいます。

(1) 確かな学力研修委員による提案授業・授業力レベルアップ研修	(5) 教科指導エキスパート派遣事業
(2) 学習意欲の科学的に関するプロジェクト	(6) 小学校中学年算数サポート事業
(3) たくましく生きる力育成プログラム	(7) 小学校理科学習支援のための指導事例・学習ワーク
(4) 学力サポートコーディネーター派遣事業	(8) 小学校外国語教育の推進

B 指導体制の充実 [きめ細かな指導]

- 少人数指導等の加配による人的サポート等を通して、学力の向上に向けたきめ細かな指導が展開できる体制を確立することにより、児童生徒の基礎的知識の定着や応用力、学習意欲の向上を図ります。
- 「小中連携の強化」や「小学校高学年教科担任制事業」等は、中1ギャップへの対応など、新たな課題に対応するための、「学びの連携」の施策につながるものです。

(1) 中1 数学少人数学習推進事業	(4) 小中学校の接続・連携のあり方に関する調査研究
(2) 小学校高学年教科担任制事業	(5) 放課後等補充学習の推進・放課後等学習支援事業
(3) 小中連携推進事業	

C 確かな学力を育成する上で前提となる環境の整備 [落ち着いた授業の成立・子どもと向き合う時間の確保]

- 学習の成立のため、一人ひとりの子どもが落ち着いて授業に参加できるよう、環境の整備を進めます。
- 幼児期から展開されている学びを学校教育につなげる取組を進めます。

(1) 小1のための生活・学習サポーター事業	(4) 校務支援システムの本格運用	(7) 指導困難学級対策
(2) スタートカリキュラム	(5) タブレット端末整備	
(3) 幼保小連携モデル事業	(6) 特別支援教育における学習指導・生活指導補助	

D 自分づくり教育の充実 [社会的・職業的自立に必要な態度や能力の育成]

- 「仙台自分づくり教育」を通じ、変化の激しい社会の中で、社会的・職業的自立に必要な態度や能力を育みます。
- 仙台自分づくり教育は、子どもの学習意欲等に大きく関わり学力を支えるものであり、教科で学んだ知識・技能を活用する応用的な学習の場としての機会を有しています。

(1) 職場体験活動推進事業	(3) 仙台自分づくり夢教室
(2) 仙台子ども体験プラザ事業	(4) 仙台自分づくり教育調査研究

E 家庭や地域の教育環境の充実 [学ぶ土台づくり]

- 児童生徒が学ぶことの必要性の認識を高め、学習内容への興味・関心を向上させるために、家庭や地域の学習環境の充実を図ります。また、地域の方との触れ合いにより、自己有用感・自己肯定感を高めています。
- 学校支援地域本部事業は、「地域とともに歩む学校」推進の柱となるものであり、学校・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育む体制の構築につながっています。

(1) 学校支援地域本部事業	(4) サイエンススクール	(6) 博物館等における学校連携事業
(2) 家庭学習推進事業 (家庭学習ノート仙台)	(5) 天文台・科学館学習	(7) コミュニティ・スクール検討委員会
(3) 望ましい生活習慣づくり普及啓発		

F 学力、生活・学習状況の的確な把握 [施策の検証]

- 仙台市標準学力検査や生活・学習状況調査を基に各施策の効果検証を行い、児童生徒の実態を把握するとともに、効果的な学力向上策の検討を行います。
- 児童生徒一人ひとりの学習到達度を把握し、有効活用することにより、分かる授業づくりや個に応じたきめ細かな指導等の授業改善につなげ、確かな学力を一人ひとりに保障することを目指しています。

(1) 標準学力検査の実施	(2) 生活・学習状況調査の実施	(3) 全国学力・学習状況調査 (補完)
---------------	------------------	----------------------